

千里ライフサイエンスフォーラム開催のお知らせ

2024年3月フォーラム(第365回)

- **開催日時** : 2024年3月14日(木) 18時00分～19時00分
※終了後19時00分～20時00分に懇親会を実施します。
- **開催形式** : 千里ライフサイエンスセンタービル6F 千里ルームAにて会場参加と講演収録。後日約1カ月録画配信
- **配信対象** : 千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費2,000円)
会員以外の皆様にもお申込みいただければ3日間限定で録画配信
- **講師** : 野林 厚志 先生
国立民族学博物館 学術資源研究開発センター 教授
- **テーマ** : 「台湾客家の動物文化と生命倫理」
- **講演要旨** :

台湾はオーストロネシア系の先住民族、早くから台湾に移住した漢族、第二次世界大戦後に大陸中国からやってきた外省人と、多様な民族構成をもつ。衣食住をはじめとする日常生活の大半は現代化、均質化しているものの、信仰や儀礼にはそれぞれの民族らしさが表れることが少なくない。本講演では、客家の人々の祭礼である義民節を紹介し動物文化をめぐる現代的な課題を通して紹介する。

客家は広東、福建、江西、四川に居住する漢族で、台湾には17世紀から18世紀にかけて移住してきた。現在、台湾の総人口(約2300万人)の約12%をしめる。台湾の客家には義民節とよばれる独特の祭礼がある。18世紀の終わりに福建系漢族の反乱の鎮圧に客家が尽力したことを記念し、客家の犠牲者を慰霊する祭礼である。旧暦7月20日に新竹県の褒忠亭で行われる義民節は台湾の中でも最大規模であり、各地の親類縁者が集まり、客家の人たちの紐帯を強める機会となっている。義民節では数年かけて肥育したブタが奉納され、共食に供される。近年、奉納される「神猪」に対し、生命倫理や動物の福祉の観点からの批判が強まっている。

民族の動物文化が倫理という外部からの価値観とどのように折り合いをつけていくのかを考える。

● **講師プロフィール** :

学歴 : 東京大学理学部生物学科卒、東京大学大学院理学系研究科博士課程中退

職歴 : 国立民族学博物館助手、助教授を経て2012年より教授。

専門分野 : 人類学、エスノアーケオロジ

主なる著書 : 『イノシシ狩猟の民族考古学—台湾原住民の生業文化』(2008年、御茶の水書房) Nobayashi, Atsushi (ed.) “Making Food in Local and Global Contexts: Anthropological Perspectives” (2022年、Springer)

主なる講演テーマ : 台湾の人々の文化と歴史

参加対象/参加費 : 千里ライフサイエンスクラブ会員(年会費2,000円) / 無料

録画配信希望のお申込はご不要です。

会員以外の皆様にもお申込みいただければ3日間限定で録画配信

録画配信の準備が整い次第、視聴方法の案内メールを送らせていただきます。

申込先 : 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団「千里ライフサイエンスフォーラム」担当

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 Tel : 06-6873-2006 Fax : 06-6873-2002

E-mail : srlf-forum@senri-life.or.jp (HP : <https://www.senri-life.or.jp/>)